

分 かん と 快 かん 感 ！

かい

Z 会ナビ

算数

理科

社会

お 題 だい

さん せい けん あ まえ けん り
参政権は「当たり前」の権利
ではなかった？

（2017年 ひつし さいがく 白本史）



おうちで楽しく！
プログラミング通信講座、
Z会にて開講中！

Z会 KOOV 検索

次の文章は、1924年に結成されたある団体の宣言書の一部を、現代語に直したものである。これを読み、この団体の活動目的が達成されるまでの日本の参政権の動向について、説明しなさい。

一、明治初年より半世紀にわたり、国民教育においてすでに男女の区別はなく、また女子の高等教育も始まりつつある今、普通選挙の実施にあたり女子を除外することは不当であり、私たちはこれを要求する。

一、以上は宗教、職業などのさまざまな違いを除き、女性に共通の問題であるため、ここに統一して婦人参政権獲得運動をする必要とその可能性を信じるものである。

今回は「参政権」をテーマとした問題を取り上げます。参政権とは政治に参加する権利の総称です。代表的な権利には選挙権・被選挙権がありますが、このほか国民投票の権利や、地方公共団体の長・議会・議員の解散・解職を請求する権利なども含まれます。みなさんも18歳になると選挙権などさまざまな権利が認められます。今回はその歴史を見ていきましょう。

議会が開設されるまで

まず、問題で紹介された宣言書を出した団体とその活動目的について、確認していきましょう。宣言書を読むと「婦人参政権獲得運動」という文言があることがわかります。この宣言を出した団体は、1924年に結成された「婦人参政権獲得期成同盟会」で、女性参政権獲得を目的として結成された団体でした。それでは、女性参政権獲得までの日本の参政権の動向を、確認していきましょう。

明治天皇が即位し、1868年に明治時代が始まります。明治時代の初めは、江戸幕府を倒し、天皇を中心とする政府の樹立に尽力した薩摩・長州・土佐・肥前の4藩出身の有力者たちを中心に、政治が進められていきました。徐々に政府内での争いも起きる中で、1870年代中ごろから、一部の政治家が権力を握る明治政府への批判とともに、国民の声を政治に反映するための議会（国会）開設の要求が高まるようになりました。明治時代の初めには、国会も国会議員も、まだ存在していなかったのです。この動きは地方も含め全



イラスト・瑞木匠

国で広まっていき、ついに政府は1890年に議会を開設することを約束し、議会に参加する議員を選出するための衆議院議員選挙法を1889年に制定しました。

制限選挙から普通選挙へ

ただし、1889年に制定された選挙法での選挙資格は、直接国税を15円以上納めた25歳以上の男性に限られ、当時の日本の全人口の1%ほどの人にしか認められていませんでした。このように選挙資格に条件を設ける選挙制度を「制限選挙」と言います。

これに対し、国民からも批判の声が出て、条件のない「普通選挙」を求める運動が広まってきました。政府側も1900年に直接国税の金額を10円以上に、1919年には3円以上に徐々に引き下げて対応しましたが、世界的な民主主義を求める動きにも押されて普通選挙を求める運動も激化します。

そしてついに、1925年に納税額の条件が撤廃され、25歳以上のすべての男性に選挙権が認められることになりました。これにより、選挙権を持つ人は全人口の約20%まで拡大しました。しかし、この時点では選挙権は男性のみで、女性には選挙権が認められませんでした。

女性参政権の実現

女性参政権を求める運動は、明治時代末ごろからすでに見られました。1912年以降の大正時代になると、農業や工場だけでなく、公共交通機

関の車掌や会社の事務員としても女性が活躍するようになり、社会進出が進んだことで女性参政権を求める運動も、普通選挙を求める運動とともに活発化していきました。そして、政府による普通選挙実現の動きが見え始めると、1924年に婦人参政権獲得期成同盟会が結成され、問題文のように、普通選挙に女性参政権も含めるよう求めました。こうした活動により、女性の政治集会への参加が認められるなど、いくつかの成果をあげることができましたが、女性参政権の獲得にはいりませんでした。

そして、第二次世界大戦後の1945年に衆議院議員選挙法が改正され、20歳以上の男女に選挙権が認められることになり、女性参政権がようやく実現しました。これにより選挙権を持つ人は全人口の約50%に大幅拡大し、翌年実施された衆議院議員総選挙では39人の女性議員が誕生したのです。

（Z会・河原井彩）

！
今回の
教訓

参政権は長い時間をかけて多くの方が闘ったことにより、獲得した権利です。みなさんも18歳になったら、そのことを思い出しながら選挙権を行使しましょう。



河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。